



地域とともにある学校

中田中学校 <コミュニティ・スクール (CS) だより>

平成30年12月20日(木) 第5号 中田中学校 文責 及川 正生

書写指導学習ボランティアがお手伝い!

12月3日(月)～7日(金)の1週間、学習支援ボランティアさんに協力していただき、全クラスの書写の指導をしていただきました。ご指導いただいたのは、菊地信夫さん(宝江在住)、羽生孝史さん(浅水・中田中出身)の2名です。

お二人とも書道の専門家であり、手本以上に素晴らしい習字を見せていただき、生徒たちも目を輝かせながら拝見し、一筆一筆真剣に取り組んでいました。宮城県小中学校児童生徒書きぞめ展に出品する「毛筆」の作品の課題は、1年生は「月光」、2年生は「自然」、3年生は「青雲」です。生徒一人一人練習し、渾身の作品を仕上げてください。



また、生徒たちにとって、本格的な先生からの書道の「技術」や「日本の伝統文化としての書道」その「精神」など、多くのことを学ぶ良い機会になったようです。学習支援ボランティアさんは、登米市学校・地域教育力向上対策事業(市教育委員会中田教育事務所 担当は中田地区コーディネーター日野菜月さん)として派遣していただきました。ありがとうございました。

今後もこうした学習ボランティアさんが教育活動に参加する機会をつくり、いろいろな側面から学校・地域・家庭が連携して、子どもたちの成長への支援をしたいと思ひます。



羽生さんから
3年生へ





生徒の感想の一部です。

- 菊地信夫先生には、黒板を使って「トメ」や「ハネ」、「はらい」の注意点を分かりやすく教えていただき集中して取り組むことができました。
- 一画ずつ丁寧に教えていただきありがとうございました。小学校の時も習字を教えていただきました。細かいところも丁寧に教えていただき、とても分かりやすく、また教えてほしいと思います。
- 「青雲」という漢字のポイントやコツを優しく教えていただきありがとうございました。
- 羽生孝史先生が目の前で書いてくれて、「トメ」、「ハネ」、「はらい」がよく分かりました。字がとても上手で勉強になりました。機会があったら、また習いたいです。
- 実際に先生が書いているところを見られたので、どのように筆を動かして書いたらよいか、分かりやすかったです。

菊地信夫さんの感想です。

- 静かであり、廊下での生徒の動きが、真に学校が生きており、生徒の笑顔が学校の活力であることを強く感じました。活気があり、生徒が生きている。伸び伸びとしている。こんな生徒と出会って嬉しくなりました。学習の意図が、一人一人の生徒に指導されています。書く姿勢も良く、学習にしっかり取り組んでいます。

羽生孝史さんの感想です。

- 学校は、とても雰囲気良く、授業環境が良かったです。また、生徒たちも一人一人目標・目的を持ち、書写に取り組んでいました。

話を聞く態度や見る姿など真剣な気持ちが伝わりました。一人一人の字に進歩が見られたのが嬉しかったです。

お二人の先生方、ありがとうございました。



コミュニティ・スクール準備会からの報告!



校長室での第2回会議の様子です

10月30日(火)に第2回、11月28日(水)に第3回のコミュニティ・スクール準備会が開催されました。学校運営協議会会則と次年度の取組について話し合いました。

地域創生や地域の担い手を育成し、学校を核とした地域づくり=子供たちが地域に残って地域を支える将来を描いてコミュニティ・スクールを推進していきたいと思います。

具体的な取組としては、次の内容を実施する予定です。(1)学習支援(学習会)、(2)安全確保(登下校の見守り)、(3)キャリア教育支援、(4)環境整備、(5)

コミュニティ行事へのボランティア支援です。詳しい内容については、後ほどお知らせいたします。

この事業を行うに当たり、保護者の皆様をはじめ、地域の方々のご理解とご協力なくして、持続可能な取組にすることは難しいと思っております。是非とも、皆様のお力添えを賜り、少しずつでも「地域とともにある学校」として、地域の子どもたちの成長と地域の発展に寄与できるよう努力して参りますので、宜しくお願い申し上げます。

